

美術による人と社会機構施設の活力ある連携

The Vital Cooperation between Person and
Social Structure Institution through Art

プロジェクト代表者：埼玉大学教育学部・横尾哲生

Saitama University Department of Education / Tessei Yokoo

1 研究目的

本研究は、科学研究基盤研究（C）による「美術による人間と諸施設の活性化—幼稚園・介護施設を中心として—」（平成15～平成18年）の研究を受け、次の2点の研究推進の必要性に対し、進めたものである。

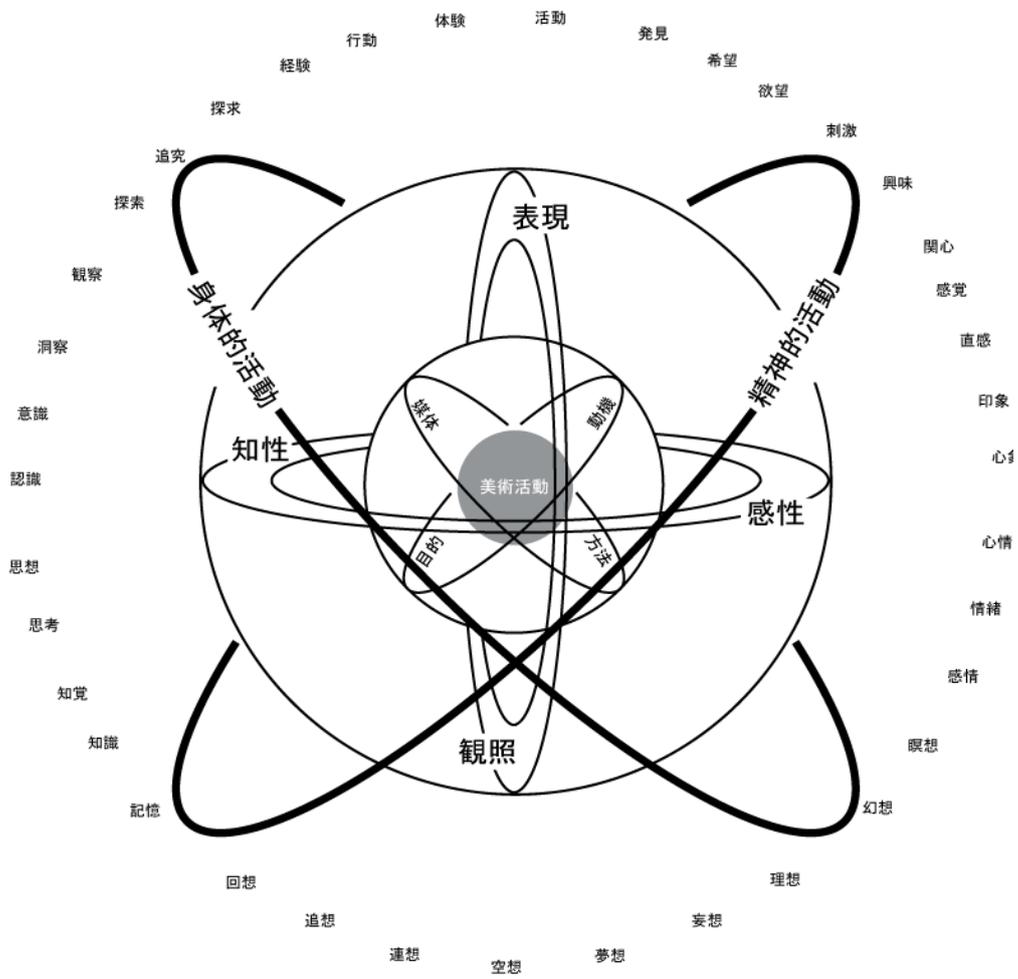
2 研究内容

1つに幼児教育、高齢者医療福祉施設の共調のあり方である。あらゆる可能性に溢れた幼児期と、人生の成就である高齢期における、共通に取り組み得る美術の考え方及び表現活動について、幼稚園教諭等と医療福祉関係者との討議の機会を設け、その必要性と可能性を議論した。医療法人が推める、介護予防施設計画（平成19年度）において、学童保育等の併設機能の具体的検討を行う段階まで進んでいる。

次に、上記科研を推めるに省り、美術表現用具・素材の現実的不備に直面し、その研究推進である。科研を進展するに際し、研究会「人と社会の活性化研究会」、環境芸術学会にその支部会を設け、『美術からの発信』を出版し得た。本書籍において、日本の各種画材工業界の協力でA.S.C (Art Support Collaboration) を設立を提示し、研究を推めることとなった。多くの画材の内18年度は、水溶性アクリル絵具、アクリルガッシュの使用簡易度を高めるため製造元（ホルベイン工業株式会社）と共議を重ね、試作段階へと進んだ。従来の運搬対応、商品展示上の視覚重視のデザインを使用者、特に幼児、高齢者の身体的特性に対応するものとして考えたものである。今後、各施設において使用の上、再度検討の上、一般化を計ることとする。

3 研究の成果及び報告

科研及び本研究は、美術関連の環境芸術学会での厚生労働省をまきこむシンポジウムを企画実現すると共に、医療法人の団体である日本療養病床協会での2回のシンポジウムを企画実現し得た。その活動は2006年8月12日の朝日新聞において取り上げられ、社会的関心の高さを実感している。これらの推進状況の報告として、東北造形芸術大学において特別講義を行った。又、埼玉大学の学生、大学院生のこれらへの積極的参加意識により、県下の幼児教育施設において、他教員の協力の元実験的講座を開く準備にはいった。



美術による活性作用

幼児と高齢者の交流



世代間交流＜美術鑑賞＞



世代間交流＜作品のおくりもの＞

日本療養病床協会 第14回大開シンポジウム



病院を前提にした美術作品展示



病床での高齢者の姿



病院を前提にした美術作品展示